

清瀬旭が丘団地におけるコミュニティと 共用空間に関するアンケート

日本女子大学 × JS

00 アンケート結果のご報告とお礼

昨年12月、日本女子大学篠原研究室は、JS（日本総合住生活株式会社）と共同で『団地共用部とコミュニティ』についてのアンケートを実施させていただきました。

年末のお忙しい時期でしたが、居住者の皆様から、約200通のご回答を頂き、大変ありがとうございました。アンケートの他に、18名の方に電話等で直接お話を伺うことができ、嬉しく思っています。

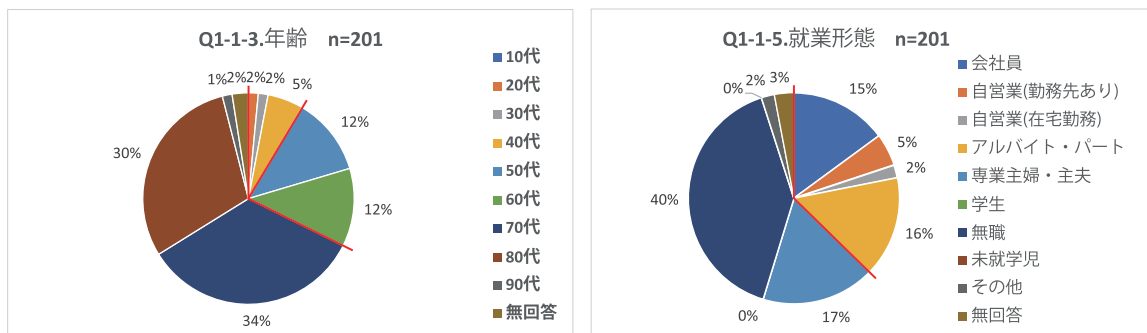
私達は、アンケートでお答え頂いたことをヒントとして、清瀬旭が丘団地のコミュニティや人のつながりについてイメージを膨らませてみました。

今回のとりまとめをもとに、今後も、皆様のご意見を伺い、ご提案をさせて頂きたいと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。

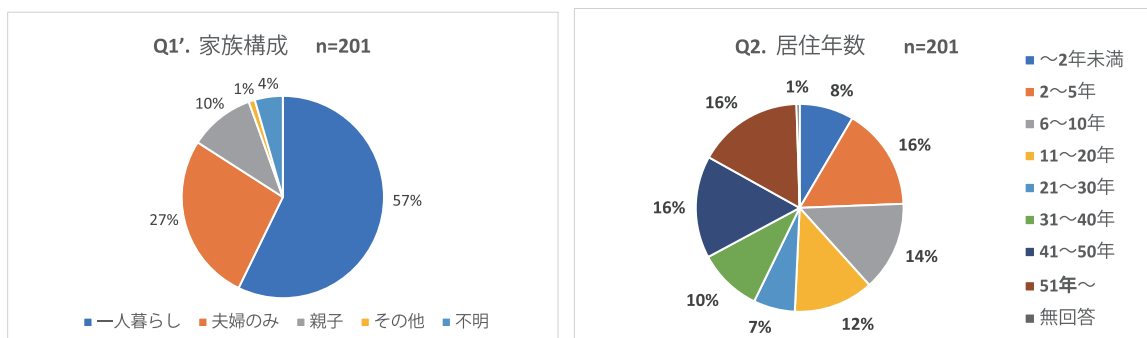


01 ご回答頂いた方の基本項目について

- ◆ ご回答いただいた方は、性別は半数ずつ、年代は70代と80代が3割ずつと多い結果となりました。
- ◆ 就業形態は1/3の方が会社員やアルバイト・パート勤務をしておられ、2/3の方が専業主婦や勤務のない方です。



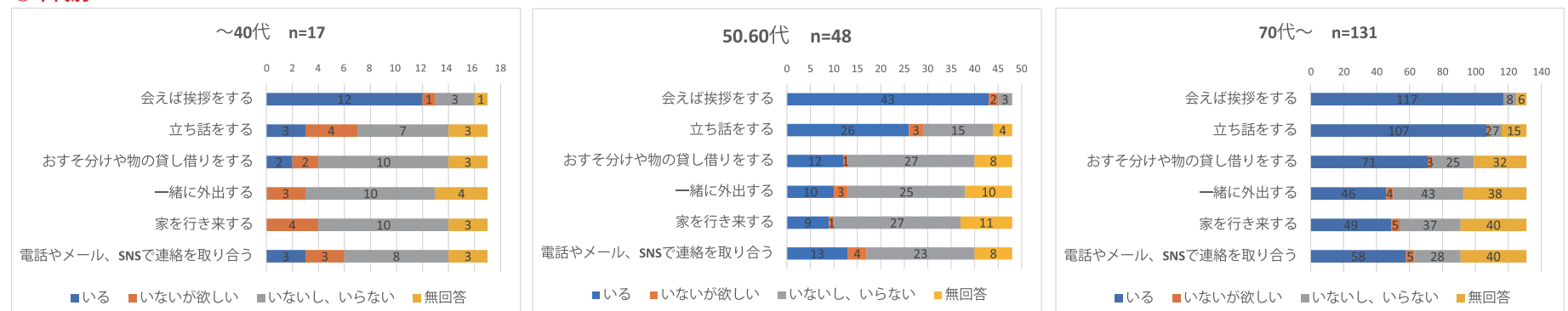
- ◆ 家族構成については単身世帯が半数以上、または夫婦のみ世帯が約1/4を占めました。
- ◆ 居住年数について10年以下が38%、41年以上が32%と多い結果となりました。また、年齢と居住年数の関係を見ると、40年以上住んでいる方は70歳以上に多いですが、70歳以上でも居住年数が10年以下の方が、3割ほどおられました。



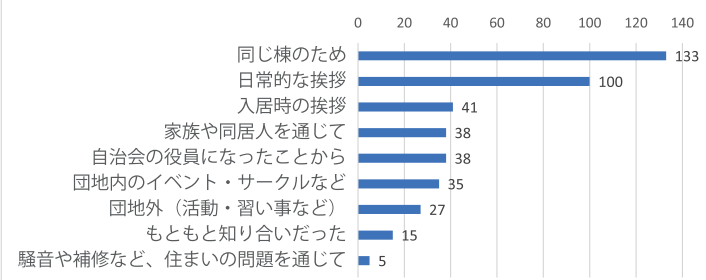
02 団地内のお付き合いについて

- ◆ 団地内のお付き合いについて、会えば挨拶をする人が「いる」と答えた方は約9割に及びました。一方、一緒に外出をしたり家を行き来する相手がいる方は3割程度に留まりました。
- ◆ 挨拶・立ち話・おすそ分け・外出・家の行き来・連絡のどの項目に対しても年代が高く、居住年数が長いほうが「いる」と答えた割合は高い傾向にあります。
- ◆ 年代別でお付き合いの状況を見てみると、40代以下の方は「いないがほしい」と答えた方の占める割合は、他の年代よりも高いようです。

○年代別



Q12. 知り合ったきっかけ n=201



- ◆ お付き合いの意識の部分では、「交流が活発だ」と感じている方は25%程度、「程よい距離感を保っている」と感じている方は7割を占めました。「もっと交流が必要である」と感じている方も半数おられました。

- ◆ 知り合ったきっかけは同じ棟のためと日常的な挨拶を通してという意見が多かったです。

70歳以上の方は挨拶・立ち話・おすそ分け・外出・家の行き来・連絡のどの項目に対しても、お付き合いをしている方が「いる」と答えられた方が多いです。一方、40代以下の方は、そのようなお付き合いの相手が「いる」と答えられた方は少ないですが、「いないが欲しい」と答えられた方もおられ、多世代交流の可能性を感じました。

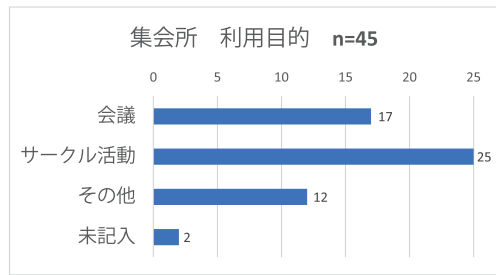


03 団地内の共用部の利用状況について



集会所

ほぼ毎日使う～年数回使う人



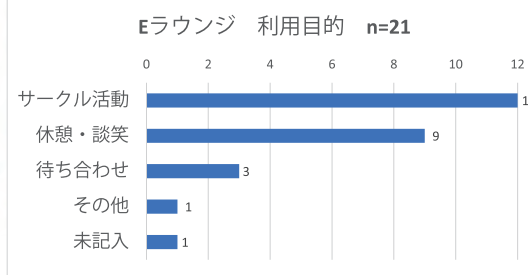
「会議」や「サークル活動」としての利用が多く、「その他」の内容もイベントや棟委員会などが挙げられ、**団体の活動**を通して利用されています。



Eラウンジ

(高齢者等が、優先的に使える施設)

ほぼ毎日使う～年数回使う人



「サークル活動」、「休憩・談笑」としての利用が多く、「待ち合わせ」で利用されている方もいました。

◆ 集会所、集会所前広場、Eラウンジは、「団地内の人」と利用されている方が多く、商店街は「1人で」、公園は「1人で」「家族・親族と」「団地内の人」と利用されている方が多いです。

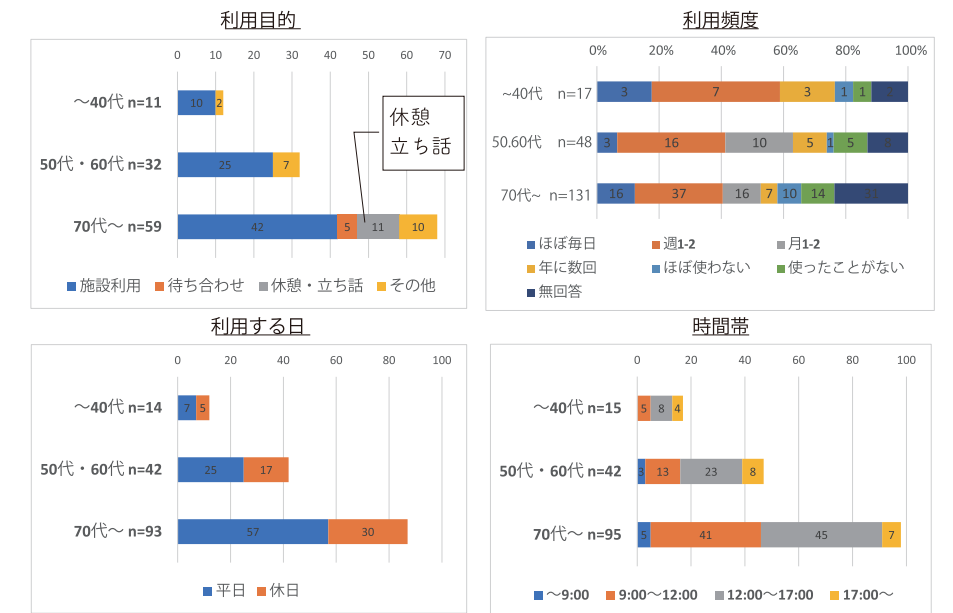


商店街エリア

利用目的は「施設利用」が多いですが、70歳以上の方は「休憩・立ち話」の場として利用していることがわかりました。施設を利用しに来て、偶然出会ったお知り合いの方と立ち話やベンチを利用して交流されていることがわかりました。



[年代別 × 商店街(利用目的、利用頻度、利用する日、時間帯)]

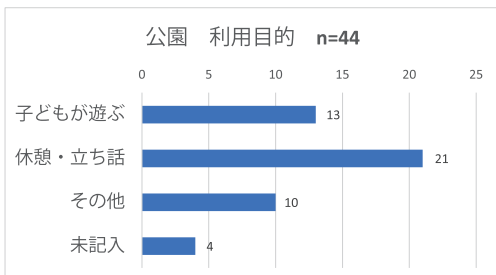


利用頻度は年代問わず「週1-2」回の利用が多く、「ほぼ毎日」利用している方も1割います。バス停への通り道であり、人が集まりやすく交流のきっかけが生まれやすい場所であることがわかります。70歳以上の方は平日の利用が多いことがわかりました。50代、60代の方は12:00～17:00の利用が多く、それ以外の方は9:00～12:00、12:00～17:00にほぼ半数ずつ利用されています。



団地内の公園

ほぼ毎日使う～年数回使う人

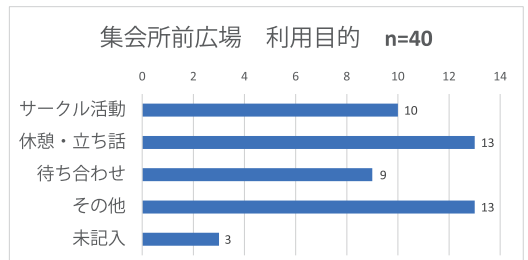


「休憩・立ち話」としての利用が多い結果となりました。「その他」の内容としては散歩やジョギング、孫と遊ぶと回答された方が多くいました。



集会所前広場

ほぼ毎日使う～年数回使う人



「休憩・立ち話」や「サークル活動」としての利用が多く、「その他」の内容としてラジオ体操、散歩、夏祭りイベント、野菜の移動販売などが挙げられました。

*公園に関しては、「ほぼ使わない」と回答された方の中でも利用目的に回答して下さった方が10名いたことから、使う意識がなく利用している人はアンケートの結果よりも多い可能性があります。

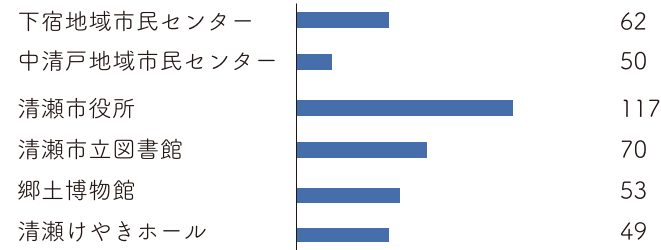
商店街や公園という屋外のオープンな場所に比べて、屋内の施設は、比較的高い年代の方の利用が多い印象を受けました。団地内に日常的に使える、**オープンな性格を持つみんなの居場所**ができることで、**交流の機会**も増えるのではないかと感じました。



04 清瀬市の生活について

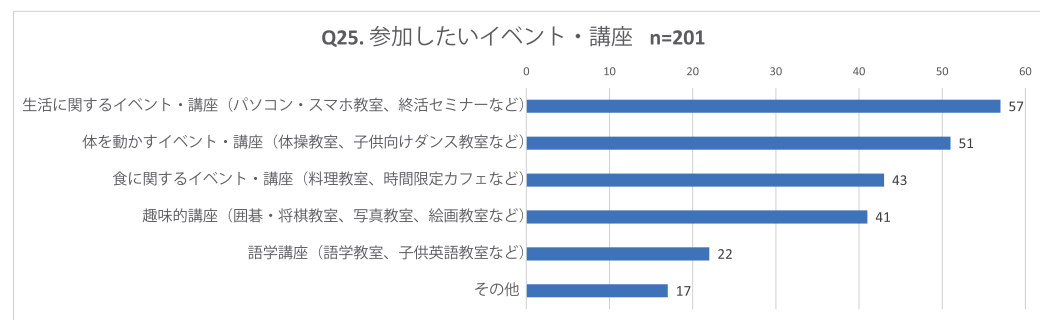
◆ 地域センターや市役所等の手続きができる施設の利用を除くと、図書館の利用が最も多く、清瀬けやきホール、郷土博物館も利用されています。

【地域でよく利用する公共施設】



05 参加したいイベント・身近にあったら利用したい共用空間について

◆ 参加したいイベントや講座は**生活に関するイベント**や**体を動かす講座**といった回答が50人以上と多いですが、食に関するイベントや趣味的講座も40人を超える方が回答しています。



◆ 身近にあったら利用したい共用空間の例として、アンケートで「カフェ」、「ブックラウンジ」、「ギャラリー」、「打合せスペース」の4つを挙げさせて頂きました。

◆ この4つの中では、「**カフェ**」と「**ブックラウンジ**」が上位に上がりました。

1：カフェ



90

2：ブックラウンジ



83

3：ギャラリー



49

4：打ち合わせスペース



28



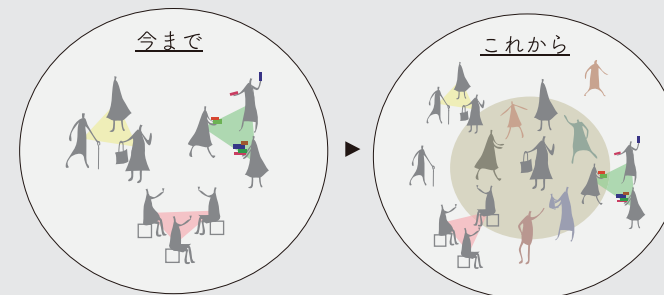
◆ 「住民相互の親睦を深め、交流できる場所を利用したいか」という設問に対する回答理由
 趣味・創作活動の活発化、**相互支援**の必要性 (困った時、災害時)、若い方と知り合う機会が減ってきた、**交流の大切さ**を感じるなどの理由で「思う」と回答する方がいた一方で、仕事で忙しく**時間がない**、友人・子供・兄弟との交流で**十分**、高齢なので新たな人間関係を築くのが面倒等の理由から、「思わない」と回答する方もいました。

普段から図書館を利用されている方が多く、生活に関する講座や体を動かす講座の参加を希望される方も多いようです。

そこで、読書をすることもできるし、様々な講座も開催できるような柔軟に変化する空間が団地内であれば、より交流できる場所になるのではないかと感じました。

交流や居場所についての貴重なご意見、ありがとうございました。

06 団地コミュニティと居場所の提案



これまでのコミュニティ

様々な人が交じりあうコミュニティへ

- 目的 -

それぞれの方が思い描くコミュニティの形は様々ですので、柔軟に対応できるコミュニティの在り方を考えたいと思っています。これまで団地での活動に参加していた方も、参加していなかった方も、気軽に活動できるような機会を作ることが必要だと感じました。そのため、出会いの場、共に利用していただけるみんなの居場所を皆さんと考えていきたいです。

- アンケートから導いた空間のテーマ -

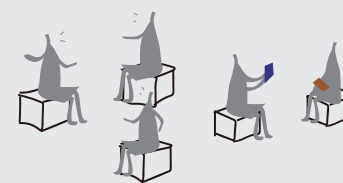
様々な人と出会う機会をつくり、多くの人が利用できる空間をつくるためには以下の3つが重要であると考えています。

① 利用しやすさ

誰でも利用しやすく、**居住者に寄り添った空間**

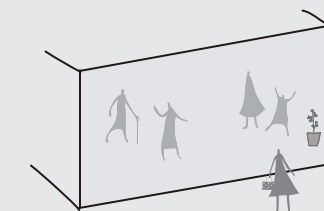
・空間を自由に使用できる

好きな時に、思いおもいに時間を過ごせる。談笑や、本を読むなど自由に利用できる。



・オープンな外観

中の様子が見え、入りやすくオープンな場所である。



② 1つの機能に固定しないこと

多様なニーズに答えられ、異なる目的を持った人が繋がる空間

・機能の併設

いろいろな機能を同じ空間内に併設することで、異なる目的を持った人同士が**出会う場**となる。

・時間によって変化するメインの機能

年代や就業形態によって異なる活動時間から、平日/休日・午前/午後といった時間で中心となる機能を変化させ、様々な用途に対応する空間とする。

空間の使用例



③ 場所に人を結びつけること

みんなが愛着を持つことができ、自分の居場所と感じられる空間

・物の共有

他の人と一緒に共有したい物を、棚に置くことで、物を介して人々が繋がる。

・皆で考えて共に作っていく

今後とも住民の皆様の意見を聞き、共に考え作っていく事で、愛着を創る。



アンケートから設定したテーマをもとに、皆さんと一緒に考えていきたいです。